

葛原しげる童謡集 作品一覧

この童謡一覧は、葛原しげるが刊行した童謡集『小猫の鈴』、『白兔と木馬』、『こんころ踊』、『かねがなる』、『葦の笛』、『葛原しげる童謡集』、『雀よこい 葛原しげる童謡集』に収録された童謡作品を対象としたものである。

【凡例】

- (一) 作品名、うたい出し（冒頭）、頁番号、備考、創作ノートの番号、創作ノートの頁番号の六項目を記載した。
- (二) 仮名遣いは、原文どおりとし、旧漢字は、現行の新字体に改めた。
- (三) 踊り字（繰り返しの付号）のうち、くの字点については、かな表記に置き換え、一の字点（ゝゞ）は、そのまま記載した。
- (四) うたい出し（冒頭）は、最初の二行を記載し、改行箇所は、「／」で示した。
- (五) 作品名索引は、童謡作品を五十音順にし、作品名、収録童謡集、童謡集の頁番号、備考、創作ノートの番号、創作ノートの頁番号を記載した。

◇『小猫の鈴』（文正堂書店、1921年6月）

作品名	うたい出し（冒頭）	頁番号	備考	創作 ノート	頁番号
小猫の鈴	小猫が、ひとりで、縁側で／頸輪の鈴を、ちろちろと、	3		②	107
鐘	ゴーンと撞いたら鐘が泣く。／ポーン、ポーンと、後で泣く。	4	梁田貞作曲（附楽譜）		
風に吹かれる花と蝶	風は吹く吹く、花に吹く。／花の梢に、さらさらと。	5	弘田龍太郎作曲 「創作ノート①」には「風は吹く吹く（花びらと蝶）」という標題で掲載	①	84
独楽	こまが、くるくる／くるくるまはる	7		②	116
電信柱	町の真中の曲り角のポストに並んで、／高いな、大きいな、電信柱。	8	小松耕輔作曲		
石の地蔵	野の四辻の柳の下に／石の地蔵は口をも利かず	9			
ストオヴ	廊下は寒い風が吹く／お庭は雪が降ってます	10	梁田貞作曲	①	128
蠅	『夕日が明るく射してゐる障子に／大きな蠅奴が一匹とまつて	11			
小さな鯉と大きな麩	小さな鯉に麩をやると、／大よるこびで寄つて来て、	13	宮城道雄作曲 「創作ノート②」には「小さな鯉」という標題で掲載	②	105
上下の臼	米搗き麦搗き、搗臼が、／幾つも並んで搗いてゐる。	14		②	68
金魚鉢の塵	涼しい風が、そよそよ吹いて／きれいな水に、さらさらと	16			
朝顔	あれ、きれい。垣根に、きれい／これ、こゝに。あそこにも	18	梁田貞作曲		
山に降る雨	パラリや、パラリ、パラ、パラ、パラリ／葉末葉末に白珠真珠。	20	小松耕輔作曲		

作品名	うたい出し (冒頭)	頁番号	備考	創作 ノート	頁番号
早春	そよ、そよ、そようら、そよ風の、／流れて入りて、町中吹けば、	22	「創作ノート①」には「三月の歌（柳と桜）」という標題で掲載	①	74
海の日の出と山上の雪	『遠くの山の頂上がアレアレあんなに、キラキラと、／光り出したよ、金ピカに。見てゐる中に銀ギラに。』	24			
風	風は何処から吹いて来る、／そして何処まで吹いて行く。	26	「創作ノート①」には「風のうた）」という標題で掲載	①	92
蜘蛛	裏のお庭の無花果と、／柘榴の木とに巣をかけた、	28	沢崎定之作曲		
木馬	僕の木馬はをかしいな。／四本の脚がついてみても、	30			
秋が来た	小鳥が三四羽チイチイと／枝にとまって鳴いてゐる。	31	宮城道雄作曲 一筆曲		
少年斥候	西日冷たき丘の上／斥候に出た小太郎は	32	「創作ノート①」には「重きつとめ」という標題で掲載	①	132
よその犬	お家の御門で、何処かの犬が、／可愛いゝ声で、ワンワン吠える。	33			
お池の氷	お池に、氷がはりつめた一向岸まで一面に／厚い氷が、はりつめた一氷の蓋をした様に。	34			
梅の蕾	ホホともケキヨとも鶯は些つとも啼かぬに一。／吹く風は、まだまだ中々寒いのに一。	35			
行く春	『何に、そんなに驚いた。』／『いろいろに昨日まで』	36	山木正夫作曲		
菱餅	小さな妹が喜んで／雛を飾つて、雛段の	38			
鸚鵡	鸚鵡が機嫌の善い時は、／人の真似して口を利く。	40	梁田貞作曲	①	123
めだか	をかしや、アハハハ。めだかはアハハ。／尾鰭がそろつて泳いでをれど	42	沢崎定之作曲		
落葉	木の葉が落ちた。／深い影をしてみてくれた木の葉が、	43		①	119
半月満月	お日は、たしかに、西に入り、／けふはたしかに、暮れたのに、	44			
あひるの進軍	温かいお日がさす円い池に、／あれ、あれ、あひるが、	46			
花火	『上つた、上つた。花火、花火。／ほら、ほら、上つた。』	48			
駱駝	駱駝よ、駱駝よ、をかしな駱駝。／いつも背中に大きな瘤を、	50	小松耕輔作曲 目次の標題は「駱駝」		
ひよこ	ひよこ、ひよこ、ピヨピヨないて／親のまわりで、よろこびながら	51	梁田貞作曲 「創作ノート①」には「ひよ子」という標題で掲載	①	158
鳥	かあ、かあ、鳥、黒い鳥。／田圃も暗く、村里暗く	52	外山国彦作曲		
雲	大きな雲が大空を、／お舟のやうに浮いて行く。	54			

作品名	うたい出し (冒頭)	頁番号	備考	創作 ノート	頁番号
草の芽木の芽	出た、出た。草の芽、出かけた、木の芽。／雪は野山に、まだまだあるに、	55	梁田貞作曲		
水たまり	御門の内の水溜り、／太郎は海だと喜んだ。	57	沢崎定之作曲		
お山	お山に登って驚いた。／元気を出して登つても、	59	小松耕輔作曲	①	154
月と子供	お月様、お月様、／丸いお顔を、ニコニコさせて、	60	小松耕輔作曲		
前の電車と後の電車	電車の後から電車が走る。／前の電車がゴーゴー走れば、	61		②	76
町の波	町の端から端までつづく、／大屋根、高屋根、低い屋根。	63	小松耕輔作曲		
電車	でんせん二本、／レールも二本、	65	梁田貞作曲		
下界の子供	おれが、いきなりビカビカと／光つてやると、面白や。	67			
金の鈴銀の鈴	金の鈴振るか、どこの子が振るか。／黄菊の花の、花の蔭で、チンチロリン	69	沢崎定之作曲		
お玉じやくし	お玉じやくしが、大きくなつて、／短い脚が、だんだん生える。	70	小松耕輔作曲	「創作ノート①」には「お玉ぢやくし」という表題で掲載	① 160
電話	ヂリヂリヂリリン、／電話できけば、	71	小松耕輔作曲		
ブランコ	前へこげば 前へぶらんこ／後へこげば 後ろへぶらんこ	72	梁田貞作曲		
テニス	左に、右に、ポーン、ポン。／ボールの音か、	73	沢崎定之作曲		
お正月 (手毬歌)	どこから来た来たお正月／大きな正月、おめでたう。	74	梁田貞作曲		
伊勢蝦 (手毬歌)	えび、えび、大えび、伊勢えび、おえび。／二見が浦のお岩の蔭で、	76	梁田貞作曲		
雪 (その一)	不思議！ 不思議！／高い御空の雪の邦土には、	78	小松耕輔作曲		
雪 (その二)	夜の間に積んだ其の上に、今朝になつても／まだ止まぬ、雪は三寸、四寸五分。	80	梁田貞作曲		
鈴の音	チンチロロチンチロロ。チロチロ、チロロ、チンチロロ。／赤いおべぎを母様が、	81	梁田貞作曲	「創作ノート①」には「ちんちろ（鈴のうた）」という標題で掲載	① 133
年の暮 (その一)	ゆく、ゆく、年が、早やゆく今年。／何うして、今年は、こんなに、早く	82	小松耕輔作曲		
年の暮 (その二)	はや日が暮れる、風が吹く、／今年もほんとに、年の暮。	84			
テニスボール	ネットを越えて、あちらへ、こちらへ／休まず飛ばば、	86			
私の草花	私の庭の草花が、芽を出し葉を出し、きのふから、／すっかり大きくなりました。	87	小松耕輔作曲		
波と磯の石	うねり、うねり、荒磯に高い波の声をきけ。／鞆々、鞆々。	89			
イルミネーション	イルミネーション、イルミネーション。／軒から屋根へ、屋根から軒へ。	90	小松耕輔作曲		

作品名	うたい出し (冒頭)	頁番号	備考	創作 ノート	頁番号
お花のボート	お庭の池の此方に咲いたお花は、雲か、／赤く染めた雲か。	91	梁田貞作曲		
鯉のぼり	大きな大きな鯉のぼり／朝から晩までお倉の上で	93	梁田貞作曲		
秘密	夏の真盛り、真昼の庭で／草木は葉を垂れ、人は昼寝の静けさに、	95	梁田貞作曲		
シヤボン玉	ふくれる、ふくれる、シヤボン玉／フウフウ吹けば、クルクルとまはつて膨れる、管の先。	97	梁田貞作曲	「創作ノート②」掲載の「しやぼん球」と類似作品か	
七面鳥	キヨロツ、キヨツ、キヨツ、キヨツ、クツ、クツ、ク。／七面鳥は、をかしいな。	98	梁田貞作曲		
百舌と鳥	何処かで百舌鳥が啼いてゐる。／夕日は沈む、あかあかと。	99			

◇第一童謡集『白兔と木馬』（文教書院、1922年1月）

白兔	白兔 白兔／あなたのお家は ぬくさうね	1	宮城道雄作曲（附楽譜）	③	123
木馬	木馬／急げよ	3		②	115
親牛子牛	ノソリ ノソリ／親牛が	6			
お船	お池に浮べた帆かけ船／帆は真白で	9			
かぢや	トンテン カンカン／トンテン カンカン	10			
一月一日	今日は／今年が一番はじめ	13		①	122
お猿	お猿 お猿／追つかけて遊ぶ	16	「創作ノート②」には「親猿子猿」という標題で掲載	②	111
鶏	雛子をよんで／コツコツコ コツコツコ	18			
林檎	林檎はきれい／赤くてきれい	20		①	112
正月	立つたよ 立つたよ 門松／ひらひら ひらひら 日の御旗	23			
双六	双六あそびは をかしいな／とんどん とんで	26	「創作ノート①」には「すごろく」という標題で掲載	①	131
お日様	キラキラキラ／東に出て	29			
ねずみ	真珠のやうな きれいな歯並／草の実のやうな 可愛いお眼々	31			
お馬	お馬／ヒン ヒン	33			
蓄音機	箱の中から／声が出る	35		①	118
だるまさん	真赤な着物に くるまつて／ちつとも 歩かぬ だるまさん	38		②	90
風の糸	高く 高く 天まで高く／もつと もつと 上れよ 高く	40			
時計	チクタク チクタク／チクタク チクタク	43			
雀のおしやべり	垣根で／三羽の子雀が	45		②	129
鈴	振れ 振れ この鈴／カラン カラン カラン カラン	47			

作品名	うたい出し (冒頭)	頁番号	備考	創作 ノート	頁番号
雛まつり	今日のはうれしい三月三日／桃や桜のお花を生けて	49			
タンク	ゴト ゴト／ゴト ゴト 動き出す	51		③	1
針と糸	針は ぐんぐん縫って行く／糸は するするついでに行く	54		②	78
大工	大工が 大ぜい 仕事場で／はたらく はたらく 威勢よく	57			
煙突の煙	煙突 煙突 高いな 高いな／黒煙 黒煙 ムクムク モクモク	59		③	175
近衛騎兵	皆 大きな馬に乗り／お馬車の後先護衛する	62		③	165
お守	私の人形 おとなしい／いつも笑顔で ニコニコと	64			
マラソン	後から／後から	66		③	16
花づくり	あれあれ 嬉し／お花が咲いた	69			
虹	虹が出た／虹が出た	71			
箱庭	高い所は山ですよ／低い所は川ですよ	73	「創作ノート①」掲載の「ワタシノハコニハ」と類似作品		
夕日	ぎんぎん／ぎらぎら 夕日が沈む	75		③	176
飛行船	唸りを立てゝ／青空に	77		①	117
をんどり めんどり	私の育てたをんどりが／体も太り 背ものびて	79		②	150
カンガルウ	大きな尻尾と 後脚で／ピヨン ピヨン ピヨン ピヨン	81			
たゝみ紙	四角な紙を いろいろに／たゝんでゆけば 面白い	84			
自動車	広い町の／真中の大通りを	86			
白熊時計	動物園の白熊が／両手をついて首を振る	89	梁田貞作曲（附楽譜）「創作ノート②」には「白熊」という標題で掲載	②	114
桜	桜が咲いた／桜が咲いた	91			
カナリヤ	カナリヤなくよ／チヨチヨチヨチヨ チーヨ	93			
三輪車	よく走れ／よく走れ	95			
兎と狸	月清き岡の上の影は何／ピヨンピヨコピヨンピヨンピヨン	98	小松耕輔作曲（附楽譜）「創作ノート②」には「月に浮れて」という標題で掲載	②	102
小さな鯉	小さな鯉に麩をやると／大きな鯉が浮いて来て	100		②	105
陸軍大将	僕は陸軍大将よ／いつもお馬で ハイドウドウ	101		②	162
雲雀	日の出ぬうちに／青空たかく	103			
五月	もう夜が明けた うれしいな／雀も とつくにおきてゐる	106	「創作ノート②」には「五月のうた」という標題で掲載	②	145
電車	チンチン 電車が動き出す／ゴウゴウ 町の真中を	108			

作品名	うたい出し (冒頭)	頁番号	備考	創作 ノート	頁番号
ぢやれ猫	縁で チロチロ鈴ならし／独りで ぢやれてた 猫が	110			
私の妹	お母さまにだっこして／お乳をのんでる妹は	113			
活動写真	出て来る／来て出る ※「出て来る」の誤植か	115		①	129
ポスト	町の曲り角の真赤なポスト／風に吹かれ	119		③	22
小さな蝸牛	居るよ 居るよ／小さな小さな蝸牛	122			
熊	動物園に熊がゐる／大きな白い熊がゐる	124			
水車	クルツ クルツ 車 水車／豆ひき	126			
ぼちとたま	意地悪子供が 吠えられた／お家のぼちに 泣 かされた	127		②	108
あひる	あひるがならんで／お池に 浮んで	128	「創作ノート②」には「家 鴨」という標題で掲載	②	112
弟	僕の弟は可愛らしい／何でも僕の真似をしては	130			
駱駝	どんな いたづらしたのか駱駝／どこかで う んと 叩かれて	132		②	104
紙風船	フウフウフウ／フウフウフウ	133			
三羽の雀	御門の上に 一羽 二羽 三羽／親鳥子鳥 三 羽の雀	135			
かへる	一つとんでは／両手をついて	137			
鯉のぼり	黒い鯉やら／赤い鯉	140			
噴水	お池の噴水面白い ひつきりなしに 水柱／シ ユウ シユウ シユウ シユウ	142			
蟻	チヨロ チヨロ チヨロ／チヨロ チヨロ チ ヨロ	144			
夕立	ピカピカ光る電／ゴロゴロ鳴り出す雷に	147		①	168
ステーション	汽車が ゴウゴウ 走つて来ては／ステイショ ンに静かにとまる	149			
蟬の声	お倉の向で啼いてゐる／ミンミン蟬が啼いてゐ	151			
蝙蝠	鳥かと見れば 変な羽／嘴が無く	153		③	2
蝸牛	お庭の隅の蝸牛／眠つてゐるかと思つたら	156	「創作ノート①」には「かた つむり」という標題で掲載	①	159
日輪草	キラキラキラと／日が照り出せば	159			
夏の朝	お庭の草に／垣根の枝に	161			
蛍	ピツカリ／ピツカリ	163			
金魚	ゆらゆら／ゆらゆらり	165			
蓮の葉の露	お庭の池に浮いてゐる／大きな円い蓮の葉に	168			
蟬	土によく似た色をして／手足しつかり 木の枝	170			
コスモス	すらすら のびて／コスモス咲いた	172			
とんぼ	とんぼ／とんぼ	174			

作品名	うたい出し (冒頭)	頁番号	備考	創作 ノート	頁番号
兵士	傍目も ふらず／姿勢を たゞし	176			
とんび	とべ とべ とんび／空高く	178			
山彦	あれ あれ 真似る／不思議 不思議	181			
雁	雁／雁	184			
野菊	たんぼの中の細道のほとりに咲いた一本の／野菊は	186		③	32
虫の音	リン リン チリリン 虫が鳴く／松虫 鈴虫 涼しい声で	187	「創作ノート①」には「虫のこゑ」という標題で掲載	①	121
だるま	ころ ころ ころび／ころんではおきる	188			
秋の野辺	ちら ちら ちら／木の葉が落ち	190			
秋の庭	チロ チロ チロロ チイロ チロ／小さな声	192			
山の木野の木	木の葉が 散るよ 山の木 野の木／木々の葉 が みな ひら ひら 散るよ	195		②	74
大砲	大砲／ガラガラ 曳き出して	197			
雪	雲の中から／白髪のおぢいさん	199			
ポプラといてふ	秋が来たから ポプラが散るよ／団扇の形の ポプラが散るよ	200		② ⑤	72 68
あられ	コン コン／コン コン 霰が降る	201			
火事	ジャン ジャン／あらあら火事よ	203			
きよろんきよん	きよろん／きよん きよん	206	「創作ノート②」には「池の水」という標題で掲載	②	52
雪だるま	雪達磨が 只一人／坐つて ちつと 睨んでる	209			
餅つき	ペツタンコ／ペツタンコ	211			
進軍	トツトツトツト／タツ タツ ター	214			
サンタクロオズ	嬉しや 嬉しや／知らぬ中に	217			
大雪	降つてる／降つてる	219		③	129
土	庭を掘れ掘れ／土を掘れ	222	「創作ノート③」には「土を掘れ」という標題で掲載	③	126
電信線の着物の包	一人息子を勉強に／都へやつた婆さんを	227	附録一 お伽譚歌 二篇一		
鼠の決死隊	猫は 鼠が大好きで／鼠は 猫が大嫌ひ	237	附録一 お伽譚歌 二篇一	②	63
お砂場あそび	ぎんずな ざらざら もりあげて	—	弘田龍太郎作曲 (楽譜のみ 本文の記載はなし) 「創作 ノート②」には「お砂場」と いう標題で掲載	②	125

◇ 第二童謡集『こんころ踊』(培風館、1923年6月)

門松番兵	千本 万本／槍の穂を	1	「創作ノート③」には「門松」という標題で掲載	③	130
日の出	あれ 今／お日の出	2		③	131
柳の芽	雪が消えたか／消えないか	5		④	10

作品名	うたい出し (冒頭)	頁番号	備考	創作 ノート	頁番号
山の芽野の芽	野には草の芽／山には木の芽	8		④	16
牡丹の芽	牡丹の芽／小さな芽	10		④	40
蛙の国	地面の底の蛙の国で／蛙仲間のひそひそ話	12		④	14
春支度	ひばり ひばり／雲雀が はじめて今日啼き出した	14		④	18
をどり子	天井板で トラツラ ラ ラ ラ／お手をつないで トラツラ ラ ラ ラ	16	「創作ノート③」には「天井裏のをどり」という標題で掲載	③	105
夢見の眼鏡	お父様 ねんね／眼鏡をかけて おねんね ねんね	18	「創作ノート③」には「お父様のひるね」という標題で掲載	③	85
絵	絵を書かう／絵を書かう	20		④	22
汽車が通る	あれ／汽車が通る	22	「創作ノート③」には「汽車開通」という標題で掲載	③	89
梅雨	お日様／御病気 今日 如何	25		④	50
蛙の子	蛙の子／蛙の子	26			
春の雨	春の雨が降る／ちらほら咲いた	28		①	72
雨だれ太鼓	トンタンタン トンタンタン／雨だれ太鼓が トンタンタン	30		④	34
晴天雨天	お日様出て行く 朝早く／何処へ出て行く 元 気よく	32		②	16
足が歩く	足が歩く／足が歩く	34		③	53
窓の雀	雀がさつきから窓に来て／あんなに本気で啼いて ゐる	36		③	71
真黒鳥	田圃をだまつて歩いてる／真黒鳥 大鳥	38		③	87
鳥の子	河原に下りた子鳥が／のぞいて見てゐる水たまり	40		④	20
大鳥	大きな鳥が ヒヨツコ ヒヨコ／田圃の中を 真直に	42		③	88
お砂場あそび	銀砂 ざらざら 盛り上げて／お山が出来た	44	「創作ノート②」には「お砂場」という標題で掲載	②	125
町の並木	柳の並木／ポプラの並木	45	「創作ノート④」には「町並木」という標題で掲載	④	32
むぐらの王子	冷たい風も吹いて来ず／雨さへ雪さへ降らぬ国	48	「創作ノート③」には「むぐらの子」という標題で掲載	③	120
ニコニコピンピンの歌	お日が照る照る 町に照る／野に照る 海に 山に照る	50		②	138
ねむり人形	私の人形新らしい／西洋人形 大人形	52	「創作ノート③」には「西洋人形-むねり [ねむり] 人形」という標題で掲載	③	121
魔法つかひの雨	雨が降る 雨が降る／魔法つかひの雨が降る	55		④	66
下駄	カラコン カラコン／カラコン カラコン	56		③	128

作品名	うたい出し (冒頭)	頁番号	備考	創作 ノート	頁番号
縄の電車	地面に するする／白墨で	58	小松耕輔作曲 (附楽譜)	③	125
夜の行列	夜の夜中の行列は／長い廊下の電気燈	60		③	113
金の杖	夢の王子が／お帰りに	62	「創作ノート③」には「夢の金の杖」という標題で掲載	③	109
筆入	一番上の姉様の／東京土産のお筆入	64	「創作ノート③」には「花の筆入」という標題で掲載	③	108
五本指	私のお手の五本指／いつでも五本の一家内	66		③	101
浮れ鼠	雨の降る日のお午すぎ／裏のお倉のお二階で	68		④	35
指の手品師	旭があたる 戸にあたる／戸の節孔を つきぬけて	70		③	106
四角	お部屋も四角／机も四角	73	「創作ノート③」には「四角の歌」という標題で掲載	③	67
窓	私が窓に のぞいたら／右左から 大屋根が	74		③	103
物尺	尺の目盛の黒筋は／観兵式の兵隊が	76	「創作ノート③」には「物さし」という標題で掲載	③	100
海の入日	お日様 海に落ち込んで／海が真赤に染まつてる	78		③	70
となりの犬	今度隣家へ越して来た／軍人さんの犬は 尻尾無し	80		③	59
煙の踊	煙が踊る とんさらり／煙突の口で とんさらり	82		③	51
時計の子供	チツクタツク チツクタツク／チツクタツク チツクタツク	84		④	28
一つ柿	五作島の柿の木の／てつぺんに	86		③	69
鼻	うつらうつらの目がさめて／ホー ホー	89		③	99
蟻の船頭	風もないのに 落ちて来て／お庭に溜つた水の上に	92		③	83
野の電信柱	電信柱 大男／風に吹かれて唸つてる	94		③	115
地面	地面は背中が重からう／御門も お家も乗つてゐる	96		③	54
達磨店の地震	地震だ 地震だ／達磨店の地震だ	98		④	42
物音	夜中の／戸の外に	101	「創作ノート③」には「物の音」という標題で掲載	③	90
流れ星	夜の御空の原つばに／星の子供が出揃つて	104	本居長世作曲 (附楽譜)	③	68
コスモスボート	垣根の外まで すらすら伸び出て／真上をむいて	106		③	144
日向ぼっこ	南二階の縁側の／紅モスリンのおふとんに	108		④	12
鬼瓦	酒屋の倉の大屋根の／黒い大きな鬼瓦	110		③	72
大風小風	大風大鬼力持／手足をひろげて大声で	112		③	52
山の水車	山の水車は／夜の夜中も	114		④	23
こんころ踊	こんころ踊がはじまつた／こんこん ころころ こんころこん	116	弘田龍太郎作曲 (附楽譜)	④	2

作品名	うたい出し (冒頭)	頁番号	備考	創作 ノート	頁番号
雪の富士山	出て見よ 出て見よ／をかしいな	119		③	132
竹藪	風の吹く日の竹やぶは／皆 そろつて 手をあげて	120	「創作ノート④」には「藪」という標題で掲載	④	11
盲目雪	淡雪 牡丹雪／真白牡丹の花片か	122	「創作ノート④」には「淡雪」という標題で掲載	④	25
白まんこ	うれしや私の大好きな／富士山今日から白シャツ	124		③	135
寝る時起きる時	私は時計の字がよめぬ／私は幾時に寝ませうか	126		④	24
雪兎	円いお盆の雪兎／冷たからうよ	128		③	110
雪の塊	おなじ枝に残つてた／昨日の雪の塊が	130		③	47
氷雨	鳩や雀は／どこへいた	132		④	4
咳の子供	コホン コホン／コホン コホンコホン	134	「創作ノート④」には「咳の子」という標題で掲載	④	8
霜柱	踏めよ 踏めよ／左 右	136	「創作ノート④」には「霜柱を踏む歌」という標題で掲載	④	9

◇ 第三童謡集『かねがなる』（培風館、1925年9月）

鐘が鳴る	かん かん かん かん／鐘が鳴る	1	「創作ノート⑤」には「雨上り」という標題で掲載	⑤	11
海の初日	海の初日が／今昇る	4		④	102
おめでたう	あつちだ／こつちだ	7	「創作ノート⑤」には「おめでたうの歌」という標題で掲載	⑤	108
夜中の羽根つき	夜中の客間で かつちん こつちん／誰か羽子つく かつちん こつちん	10		⑤	104
小さな芽	静かに しとしと降つてみた／雨は夜の間に止んでみて	13		④	109
小使畑の猫柳	小使部屋の裏畑の／小さな畑の猫柳	15	「創作ノート④」には「猫柳」という標題で掲載	④	115
一本堇	学校の裏の島の土手の／一本堇	17		⑥	36
つくしんぼ	草の根つこよ／すこし退け	18		⑥	52
花の市	今日は たんぼの花の市／赤い花屋は蓮華店	20		④	49
雨の糸	銀の細糸／ガラス糸	22		④	105
谷の運動会	谷の桜の花片の／運動会	24		④	63
傘舞台	傘／番傘	26		④	89
月見草	誰もとほらぬ川堤に／夜露が下りて	28	「創作ノート⑥」には「夜ふけの月見草」という標題で掲載	⑥	21
お天気	お天気だ／お日和だ	30		⑤	99
雲雀の雛	麦の穂波の うねるとき／大豆のさやが ふくらんで	32	「創作ノート⑥」には「大豆のさやが（春の野）」という標題で掲載	⑥	34

作品名	うたい出し (冒頭)	頁番号	備考	創作 ノート	頁番号
ひよこの卵	ひよこは小さいね／可愛いね	34		④	125
ブランコの乗り手	いくつも／並んで垂れてみる	36	「創作ノート⑤」掲載の「柳のブランコ」と類似作品か		
土筆坊	土筆が／頭を持ち上げて	38		④	104
お池の鏡	お池の鏡に／うつるのは	41		⑥	61
ひよこびよびよ	雛子びよびよ／雨が降る	44		⑥	74
草山のわらび	お日様に／ポカポカと	46		⑥	80
雨の玉	玉／玉	48		⑤	16
竹の垣	風の日／植木師が直してた	51		⑤	14
大とび 小とび	雀 子雀 親雀／学校の軒で巣立して	54		⑥	78
なめくじ電車	きらきら光るレール路／土塀の屋根の	57	「創作ノート④」には「のろのろ電車」という標題で掲載	④	99
雨の日の小鳩	クツ クツ 小鳩／雨降る朝の	60		⑤	100
菌の迷ひ子	よくも続いた／雨上り	63		④	94
蟻の遠足	今日は朝から／暑くもなくて	66		⑤	6
日永	日が永くなつて／裏の離座敷の	68	「創作ノート⑤」には「日が永くなつて」という標題で掲載	⑤	22
物干竿	大人か／子供か	70		⑤	53
波の赤ん坊	海のお部屋の／灯をけして	73	「創作ノート④」には「波のあかんぼ」という標題で掲載	④	77
脚をひろげた王子様	朝日がさして／きんら きら	76	「創作ノート⑥」には「脚をひろげた王子様／蜘蛛の王子様」という標題で掲載	⑥	96
親波子波	親の大波／子供の小波	78		⑥	77
岩と波	きのふも波が攻めてみた／今日もあんなに寄せて居る	80		④	119
波がしら	海広々と／風が吹く	82		⑤	64
蒨の葉太鼓	井戸のほとりで／ポツタン ポツタン	85		⑤	23
川をあぶく	海はまだ遠い／日はまだ高い	88	「創作ノート⑥」には「川の泡」という標題で掲載	⑥	35
蛙のあそび	蛙はいつでも／うれしかろ	91		⑥	46
涼しい晩	涼しい晩だ／皆で涼まう	94		⑤	41
鯉船	えんやらえつさ お日の出だ／鯉は大漁だ えつさつさ	96	「創作ノート⑥」には「大漁船」という標題で掲載	⑥	22
花のかず	朝顔は／幾りん咲いたろ	99	「創作ノート⑥」には「朝顔の花のかず」という標題で掲載	⑥	43
風の親子	親の大風声上げて／お庭の大松ゆすぶつた	102	「創作ノート⑤」には「風の親子供」という標題で掲載	⑤	91

作品名	うたい出し (冒頭)	頁番号	備考	創作 ノート	頁番号
朝顔姫	朝は／ニツコリ	104	「創作ノート⑥」には「朝の朝顔、晩の朝顔」という標題で掲載	⑥	88
早起き	お日様／山に顔出した	106		⑥	20
丘の上	今日も／遠くの遠くの方で	108		④	74
風の矢	風の吹く日の／矢を	110		④	90
闇夜のお使	流れ星／流れ星	112	「創作ノート⑤」には「やみ夜のお使」という標題で掲載	⑤	28
朝ぎり	朝霧こめた街道の／角を曲つて出て来たものは	114	「創作ノート⑥」には「朝霧」という標題で掲載	⑥	94
風のお手手	風のお手手は／大きなお手手	116		④	86
唐辛子蜻蛉	とんぼ とんぼ／真赤なとんぼ	119	「創作ノート⑤」には「とうがらしとんぼ」という標題で掲載	⑤	45
鳥と柿	それ来た／鳥	122		⑤	71
空の飴売り	飴は売れるか／売れないか	125	「創作ノート⑤」には「空の飴屋」の標題で掲載	⑤	67
金芽銀芽	金の芽が光る／銀の芽が光る	129	本居長世作曲 (附楽譜) 楽譜では作品名が「金の芽銀の芽」となっている。「創作ノート④」にも「金の芽銀の芽」の標題で掲載。	④	81
千万とんぼ	とんぼ とんぼ／千匹とんぼ	132	「創作ノート④」には「千万とんぼ赤とんぼ」という標題で掲載	④	83
木の葉舟	やれ漕げ／それ漕げ	134		④	96
空の町	夜だけ見える空の町／町一ぱいの電気燈	136	「創作ノート④」には「空の電燈」の標題で掲載	④	108
冷たいあんよ	まだ日のさゝぬ／屋根の霜白い	138		⑥	7
扉	外では 霰が／パラ パラ パラリ	140	「創作ノート④」では「ドア」という標題が二重線で打ち消し	④	97
雪の手足	雪の手足の／白いこと	143		⑥	48
北風	どどどん／どどどん	146		⑤	93
親子のあひる	氷がやつととけかけて／池にはいつた親あひる	148		⑥	56
大風絵凧	広っ場の／ほとりの店の	150		⑤	110
大麦小麦	出たよ 一寸／伸びたよ 二寸	154		⑤	76
にらみつこ	馬は頭を下げてゐる／鶏は頭を上げてゐる	156		⑥	15
日があたる	日があたる／日があたる	158	小松耕輔作曲 (附楽譜)	⑤	92
お早う	東のお山に／お日様上つて	160	「創作ノート⑤」には「おはやう」という標題で掲載	⑤	40
夜の大工さん	夜の大工さん／何建てる	162		⑥	84
ケーブルカー	雨の降る日のケーブルカー／電線づたひのケーブルカー	165		④	114

作品名	うたい出し (冒頭)	頁番号	備考	創作 ノート	頁番号
ハーモニカホテル	ハーモニカ／ハーモニカ	168	「創作ノート④」には「ハーモニカ・ホテル」という標題で掲載	④	54
テニスボールの眼	テニスのボールに／眼があるか	172		⑤	58
大時計 小時計	お居間の時計は大時計／柱時計の懸時計	174		④	95
ラツパ	太い赤紐／まきつけて	176		④	91
闇夜	外は闇夜だ／真暗だ	177		④	85
あわてたゴム風船	持ちかへる間に手をぬけて／頭ふりふり逃げて行く	180		⑥	37
寺から下りて	山のお寺のにはとりが／遊びに下りて日が暮れて	182	「創作ノート⑥」には「お寺から下りて」という標題で掲載	⑥	51
お客様ごっこ	お客様おかへり／玄関に お見送り	184	「創作ノート④」には「椅子のお客様ごっこ」という標題で掲載	④	62
琴柱	琴の小川の瀬はいくつ／瀬をわたりゆく	186	「創作ノート④」には「琴柱(十三小人)」という標題で掲載	④	126
山と雲	山が／雲まで	188		⑥	4
赤い裁縫箱	赤い裁縫箱／縮緬の小箱	190		⑤	42
小石	路にころころ／ころんでる小石	194	「創作ノート⑤」には「路ン中の小石」という標題で掲載	⑤	20
モートル	すかたん とんとん／モートル とんとん	198		⑤	7
小鳥の着物	森の服屋は／小鳥がお客	200	「創作ノート⑤」には「森の服屋」という標題で掲載	⑤	24
苗千本	赤い椿に 雨がふる／白い椿に 雨がふる	202	「創作ノート⑥」には「(椿の) 苗千本」という標題で掲	⑥	32
畠の小松	畠の中の一つ松／一の枝	204		⑤	56
カツタリツコ	カツタリツコ ジャンブリコ／カツタリツコ ジャンブリコ	208	「創作ノート⑤」には「水車小屋」という標題で掲載	⑤	101
曲り角のポスト	雨の日には濡れ坊主／曲り角の濡れ坊主	210		⑤	4
石地藏	野路／二つに分れるところ	213	「創作ノート④」には「両手を合せた石地藏」という標題で掲載。「創作ノート⑧」掲載の「[改作] 石地藏」と類似作品か。	④	71
村の日の出	隣の村の／山からのぞいて	217		⑥	33
雨の一本松	今日は／朝から雨降りだ	220	「創作ノート⑥」には「雨の一本杉」という標題で掲載	⑥	13
百足虫百足	百足虫百足／下駄はかず	223	「創作ノート⑤」には「むかで百足」という標題で掲載	⑤	46
四ひきのお馬	お馬が通る／白馬	226		④	113
猫の髭	髭をきらう／髭をきらう	230	「創作ノート④」には「猫の髭(きつてみろやい)」という標題で掲載	④	67

作品名	うたい出し (冒頭)	頁番号	備考	創作 ノート	頁番号
松のうろこ	鳥居の前の大松の／皮の鱗を はぎませう	234	「創作ノート⑥」には「松の鱗」という標題で掲載	⑥	57
関のレール	関のレールは／二すぢ 三すぢ	236	「創作ノート⑤」には「縁側町の列車」という標題で掲載	⑤	10
雪の日本	日本国中／大雪よ	238	弘田龍太郎作曲 (附楽譜)	④	106
針店のお客	里の松の木の針店の／針買ふお客は	240		④	53
七軒村の電気	遠い山道／迷はず来たよ	242		④	103
村の橋	いつも どこかで見たやうな／橋のたもとの石地蔵	244		⑥	107
燕の電信	つばくらめ／つばくらめ	246		④	98

◇ 第四童謡集『葦の笛』（培風館、1928年6月）

とんかつか	とんとんかつか とんかつか／桶のたがはめとんかつか	1		⑧	46
梅の木三本	一等大きい梅の木の／梅の花	3		⑥	138
ちよこれいと	ぎんぎらぎんの銀紙を／そ一つと開けると	6	「創作ノート⑧」には「チョコレイト」という標題で掲載	⑧	12
卒業の晴着	二月は寒い 風寒い／夜風も凍る山の家	8		⑦	121
はだかの雛子	はだか の ひよこ／パイヨ ピヨ	11		⑥	144
お山の大きはげ	大きなお山の／大きはげだ	13	「創作ノート⑧」には「お山の禿」という標題で掲載	⑧	35
野中の駅で	急行列車が通るまで／僕等の汽車は止ります	16	「創作ノート⑧」には「野中の駅」という標題で掲載	⑧	80
首ふり鼻ふり	熊が首振る／鉄の格子の中で首振る	18		⑧	55
トロツコ	ガツタンコツコ トロツコだ／そら来た 速いぞ	21		⑦	89
踏切り	さア お通り／汽車さん お通り	23	「創作ノート⑧」には「踏切」という標題で掲載	⑧	44
野路の三つ角	野路の三つ角 曲り角／朝は 右から左から	26		⑧	60
犬のお鼻	犬のお鼻に さわつて見たか／犬のお鼻を よく見たか	28		⑧	11
春の夜の風	うすべにの／花びらを	30		⑦	119
野雲雀	パイチク パイチク／雲雀が昇る	32	「創作ノート⑥」には「野ひばり」という標題で掲載	⑥	131
クレヨン画	一ひら 二ひら／散りかけた	36	「創作ノート⑥」には「雨の日／クレヨン画」という標題で掲載	⑥	134
春の夢	はねまはりすぎて／とびすぎて	38	「創作ノート⑥」には「泣いたゆめ／春のゆめ」という標題で掲載	⑥	128
鸚鵡のお家	丸かご／小かご	40	「創作ノート⑦」には「あうむのお家」という標題で掲載	⑦	99
昼間の探照燈	二階の窓の日あたりで／鏡を照らして遊んだら	43		⑧	8

作品名	うたい出し (冒頭)	頁番号	備考	創作 ノート	頁番号
雲雀が上る	雲雀が上る 歌声高く／あんなに早く 親鳥上る	46		⑦	88
火鉢のあくび	朝からあいてる窓の内／桜の花が散り込んで	48		⑧	27
不出来なお舟	笹舟 小舟／三艘 五艘	50	「創作ノート⑦」には「不出来なお舟／さゝ舟」という標題で掲載	⑦	109
雨の軽業	あんな軽業 出来ないね／ポツンと落ちては	52		⑦	92
巢立ちの日	空は 青々 日本晴／軒の雀のお家では	54		⑧	14
伸びる竹の子	伸びろ 竹の子／昼間も伸びろ	57		⑥	124
藪の枇杷	一つ大きい藪の枇杷／竹の垣根の曲り角	59		⑥	147
三びき蛙	父さん蛙が ゲロゲゲロ／そこで ゲロゲロ	61	「創作ノート⑧」には「うれしい蛙 (三びき蛙)」という標題で掲載	⑧	45
野中の西洋館	土盛り上げて野の中に／西洋館が建ちました	64		⑧	101
釣竿	大人の釣つてる釣竿は／太くて長い竿でした	66	「創作ノート⑧」には「親子の釣竿」という標題で掲載	⑧	71
猫の散歩	裏の細径 草の露／散歩について来た猫が	68		⑧	94
葦の笛	葦の葉巻いて／葦の笛	70		⑧	69
三びき羽虫	がらあき夜汽車が／田圃を走りや	73	「創作ノート⑧」には「三匹羽虫」という標題で掲載	⑧	52
八つ手	お庭の隅の大きな手／八つ手が みんな	76	「創作ノート⑧」には「雷と八つ手の手」という標題で掲載	⑧	92
夕立の後	大夕立は／今 やんだ	78		⑥	121
どうも ありがたう	途中で／雨にあつた時	80	「創作ノート⑥」には「ありがたう」という標題で掲載	⑥	157
夢見花	赤い花 怒り花／赤いカンナが	83	「創作ノート⑥」には「夢見花／夏の四つ花」という標題で掲載	⑥	126
ギツチヨン チヨン	毎朝 はよから ギツチヨン チヨン／風もない日の真昼間	86		⑦	120
はまべの子	汽車を見て／かけて出て	89		⑦	105
日でり	田圃の夜ふけの／ひそひそ話	91		⑥	117
山の大豆	山の畠の晴つゞき／大豆が太つて 乾からびて	93		⑧	50
なかない狐	大きい鳥居／小さい鳥居	95	「創作ノート⑥」には「あなりさま」という標題で掲載	⑥	136
兄さん来たナ	兄さん来たナ／来てゐるナ	97		⑦	29
駅長さん	急行列車が出た後を／ちつと見て立つ駅長さん	99		⑧	84
青田の鳥	青田つづきの／広い田圃を	101		⑧	49
島の船	沖から来る風／何の風	103		⑧	16
汽船の小鳥	瀬戸内海の／大きな港	106		⑥	139

作品名	うたい出し (冒頭)	頁番号	備考	創作 ノート	頁番号
屋根棟のペンペン草	母屋の藁屋根 棟瓦／瓦のすきまに 伸び出した	109		⑦	61
くらげ	ふうわり ふわり／くらげよ くらげ	111		⑥	140
おいなりさま	野中に／こんもり杉の森	113	「創作ノート⑧」には「お稲荷さま」という標題で掲載	⑧	93
ねとぼけて	月の光の／明るさに	115	「創作ノート⑧」には「ねとぼけて／(月夜の鶏と鳥)」という標題で掲載	⑧	64
峠の一本杉	峠の一本杉が見え出した／あれから先は下り坂	118		⑧	70
口鉄砲	口鉄砲で ホーイ ホイ／雀が来てても だまつてる	121		⑧	47
岩穴洞穴	岩穴 洞穴 おばかさん／お口あんぐり	124	「創作ノート⑦」には「ほら穴あんぐりさん」という標題で掲載	⑦	78
村の夕ぐれ	山へ帰るか 田圃の鳥／野中の地蔵の一本杉に	127		⑦	45
ひよろ松	ひよろひよろひよろ松／せいたかのつぼ	129		⑦	106
夢	夢が／ほんとで あればよい	132		⑥	156
となりの引越	となりの引越／がつたんこ	134	「創作ノート⑥」には「犬のひきこし」という標題で掲載	⑥	154
親鹿子鹿	鹿だよ 角だよ／二本だよ	136		⑦	139
寺の日暮	山のお寺の鐘撞き男／早く日暮の鐘撞かないか	138		⑥	132
がらあき電車	夜更に走る／がらあき電車	140		⑥	142
かけつくら	風と／葉つばの	142		⑥	143
石曳	うんさ うんさ／石曳きだ	144		⑦	49
石ころ畠	石ころ畠／一くわ	146	「創作ノート⑦」には「石ころばたけ」という標題で掲載	⑦	43
日暮れ時	日暮時 日暮時／どこの家でも日暮時	148	「創作ノート⑥」には「日暮時」という標題で掲載	⑥	151
お山の細路	お山の／お山の細路は	151	「創作ノート⑥」には「お山の細みち」という標題で掲載	⑥	152
泥舟ぶくぶく	兎と狸と ぎつちらこ／舟の漕ぎつこ ぎつちらこ	154	「創作ノート⑥」には「狸の泥舟」という標題で掲載	⑥	158
小狸の夢小兎の夢	こんこん小山の小狸は／お腹鼓も打たないで	156	「創作ノート⑥」には「小狸小兎」という標題で掲載	⑥	118
文福茶釜	茶釜に によきによき／手が生えて	158	「創作ノート⑥」には「文福茶がま」という標題で掲載	⑥	161
隣のお爺さん	そうれ／隣りのお爺さん	161		⑦	38
鬼の物尺	鬼の物尺／火の見の梯子	164		⑥	95
峠みち	留守居が 嫌で／ついて来た	166		⑦	103
犬に何やろ	犬に 何やろ／何をやろ	169		⑥	119
夜風の話し声	きいたか／夜風の話しごゑ	171		⑧	41
ケンケン子雉	ケンケン 子雉／山雉 啼くな	174		⑥	145

作品名	うたい出し (冒頭)	頁番号	備考	創作 ノート	頁番号
一軒屋	今日も／煙が 立つてゐる	176		⑦	39
かんすの火事	竈のかんす／シヤンシヤンたぎる	178		⑦	51
立木の煙	煙よ／立木に からまりついて	181	「創作ノート⑦」には「立木の煙／トンネル出口の白煙」という標題で掲載	⑦	98
とりこ	夜の間に／雪が つみました	184	「創作ノート⑦」には「雪とキューピー」という標題で掲載	⑦	17
冬田の案山子	稲刈った後の／冬田の案山子	186		⑦	130
峠の鳥	峠の茶屋にみた鳥は／鳩より 少し小さくて	189		⑧	62
ちやつきちやき	お庭の躑躅 ちやつき ちやき／松 ひば ひの木	192		⑧	120

◇ 第五童謡集『葛原しげる童謡集』（日本童謡社、1935年11月）

お正月 うれしいね	お正月 うれしいね／母さまも にこにこと	2		⑪	142
お山へ 野原へ	お山へ行かうよ／お山へ行こよ	4	「創作ノート⑨」には「お山へ行こよ野原へ行こよ」という標題で掲載	⑨	78
餅草	大きな餅草 かごーぱい／大よろこびで 帰つたら	6	「創作ノート⑬」には「餅草 つみ」という標題で掲載	⑬	84
白い桃赤い桃	白い桃 咲いた／赤い桃 咲いた	8	「創作ノート⑩」には「お池のほとり／白い桃赤い桃」という標題で掲載	⑩	50
瀬戸の蝶々	今日は 朝から 西の風／波のあれてる瀬戸越えて	10	「創作ノート⑫」には「尾道の蝶々」という標題で掲載	⑫	96
駱駝のたんこぶ	駱駝の背中の たん瘤の／お山登りの 坂道は	12	「創作ノート⑫」には「駱駝の背のたん瘤」という標題で掲載	⑫	133
引込め竹の子	踏まれて 怪我するよ／地ん中へ 引込め	14	「創作ノート⑩」には「引込め竹の子」という標題で掲載	⑩	127
藪の中道	藪の中道 涼しいね／何か おいしい餌があるか	16		⑬	70
ぱつぱつ ぼつぼつ	ぱつ ぱつ ぼつ ぼつ 煙の環／発動機船の煙突が	18	梁田貞作曲（附楽譜） 「創作ノート⑫」には「煙の環」という標題で掲載	⑫	25
もうもの子牛	「もう 乳やめよか のむまいか」／もうもの子牛の思ふこと	20		⑪	4
鶏舎の番雛子の番	鶏舎の戸口を のぞいたら／ひよ子は 一羽もみなかつた	22		⑩	133
菜たね畠のをんどり	畠は 日ざかり／花ざかり	24		⑨	103
地藏様ねむい	どこまで こめてる 野の霞／雲雀も 昼のごはん時	25		⑬	86
花見しないか燕	お家の巢で寝た つばくらめ／雨戸の開くのを待ちかねて	26		⑬	93

作品名	うたい出し (冒頭)	頁番号	備考	創作 ノート	頁番号
五六インチのつくし んぼ	五六インチの つくしんぼ／いつまで ひよろ りと	28	「創作ノート⑭」には「つく しんぼ」という標題で掲載	⑭	109
一人つ子	ちよろ ちよろ 小流れ／花あやめ	30		⑩	56
学校がへり	学校じまひのかね かん かん／「先生さよな ら」「さやうなら」	32	「創作ノート⑭」には「学校 かへり」という標題で掲載	⑭	85
屋根のごま	鳥が 種子を 蒔きました／蒔く気は なくて 蒔きました	34	「創作ノート⑧」には「鳥と 屋根のごま」という標題で掲 載	⑧	82
どろんこどろ道	どろんこ どろ路 雨上り／半分 出来た新道 を	38	「創作ノート⑪」には「ドロ ンコどろ路」という標題で掲 載	⑪	117
雨がしとしと	雨が しと しと／窓に しと しと	40	「創作ノート⑬」には「雨が しとし」という標題で掲載	⑬	74
だしぬけの雨	お庭の敷石 磨き石／きれいな石に ぼつ ぼ つ と	42		⑬	90
桑の葉を摘まうよ	桑の葉を摘まうよ／近い川瀬の音 きゝながら	44		⑩	143
大傘小傘	細雨 長雨 七日雨／お庭の隅の木の下に	46		⑨	99
いちぢく	まだ実の青い無花果の／青い葉つばの まん中 で	48		⑨	88
ろばさん ろばさん	ろばさん ろばさん／うさぎうま	50			
わらび の じゃん けんぼん	わらびと／わらびと	52	「創作ノート⑭」には「わら びのジャンケンポン」という 標題で掲載	⑭	74
かげとかげ	お日様 出たよ／雲から 出たよ	54		⑬	112
はやうおおき	はやう おおき／夜が あけました	56	「創作ノート⑭」には「早よ お起き」という標題で掲載	⑭	92
おはつのぱつちん靴	雨 雨 早く止め／早く 早く 止んでくれ	58	「創作ノート⑪」には「雨の パツチン沓」という標題で掲 載	⑪	6
雨ふれ今ふれ	私の雨傘 絵傘／きれいな柄長の 小傘	60	「創作ノート⑩」には「雨ふ れ雨ふれ」という標題で掲載	⑩	120
をんな牛	大きい 黒い牛だけど／おとなしい牛だよ	64	「創作ノート⑬」には「女う し」という標題で掲載	⑬	72
瀬戸のぼつぽ船	朝から晩まで ぼつぽ ぼつぽ ぼつぽ ぼつ ぽ／おんなじ所を ぼつぽ ぼつぽ ぼつぽ ぼつぽ	66	「創作ノート⑫」には「ポツ ポ船」という標題で掲載	⑫	97
こけこけこ	私のひよ子が 大きくなつて／親のやうになつ て	68	「創作ノート⑨」には「コケ コケコ」という標題で掲載	⑨	106
豚の大ぐひ	豚の大ぐひ 大きなお腹／うゐー うゐー	70		⑩	151
ポチの初汽車	初めて汽車に のせられて／ポチも お伴で ございます	72		⑫	84
カナリヤのこゑ	かごの中 広い／朝日が 一ぱい	74		⑬	125
物置の鼠	真昼 静かな裏庭の／物置の	77		⑭	116
左様なら子鼠	左様なら 子鼠 引越すよ／エスも 明日から 居ないから	80		⑬	95

作品名	うたい出し (冒頭)	頁番号	備考	創作 ノート	頁番号
御用邸のおまはりさん	きれいな橋の まん中で／おまはりさんが 見てる	82	川	⑨	14
だんご	串に ささつた 串だんご／一二三四 五つ	84		⑫	126
あたたんあたたん	「あたたん」／「あたたん」	86		⑩	110
朝何時	こけこの をんどり／朝何時	88		⑩	129
へちま・へうたん	太郎は へちま を うゑました／「へちま」 の立札 立てました	89		⑭	47
お日様のタオル	お日様 お早う ございます／まだ ねむさう な お顔付	92		⑮	56
雲のおやつ	湯気 湯気 ふーわ ふわ／鉄瓶の口から ふーわ ふわ	94		⑮	57
みよちやん	おとしは九つ／名は みよちやん	96		⑮	23
大花ごぎ	野原の花ごぎ 大花ごぎ／だんだら模様	100		⑨	135
可愛いらんちゆう	夜店で買って来た金魚の子／あかい かはい らんちゆうを	102		⑫	83
金魚買ひ	誰かゞ 買ふまで／待つてましよ	104		⑩	125
田草とりのお姉さん	田草とりの うたのこゑ／向かふの山にひびき ます	106		⑨	100
池の子蛙	蛙の子供が遊んでる／女の子	108		⑩	128
明るい水田	野みちは 暮れても／暮れない水田	110		⑨	89
朝顔の聴音機	どの窓も まだ開かないに／どこからか 敵の 飛行機が	112		⑭	86
啼かない蟬	夜汽車の灯をみて／とんで来た	114		⑧	81
ポプラのかげ	ポプラの かげの／風 そよ そよ	115		⑭	84
子雀と若竹	やぶのかげの 納屋の軒で／今朝 巣立した雀 の子	116		⑭	82
ひらへら舞	ひらへら へつたり ひらへら へ／ひらへら ひらへら ひらへら舞	118		⑨	38
出たぞかうもり	出たぞ かうもり／町はづれ	120		⑧	78
蛍すいすい	蛍 すい すい 川の風／川ばた沿の草のみち	122		⑬	89
おつかな びつくり	おつかな びつくり 枝の先／何か 葉つば を 皆たべた	124		⑨	35

作品名	うたい出し (冒頭)	頁番号	備考	創作 ノート	頁番号
子蟹	温泉宿の 洗面所に／誰が おいたか 小茶碗 一つ	126		⑪	5
西瓜畠	西瓜畠の番小屋に／昼間 つつてる蚊帳の中	130		⑧	96
お午飯時	お倉の横の柿の木の／蟬は なかなくなりました	132	「創作ノート⑪」には「御ひるはん時」という標題で掲載	⑪	8
海の風空の風	沖には 風が吹いてゐる／白帆の船が 幾艘も	134	「創作ノート⑩」には「海の風、空の風」という標題で掲載	⑩	109
天の川	天の川／お水が一ぱい	136		⑨	34
燈台道	畑は 芋畑 海の風／畑の中道 両側の	138		⑬	91
水溜水車	水は かれがれ 野の水車／廻らずなつて	140	「創作ノート⑩」には「水かれ水車」という標題で掲載	⑩	141
避雷針	雷落ちろ 雷落ちろ／家を焼く雷 こわす雷	142	「創作ノート⑧」には「ひらいしん(雷避け)」という標題で掲載	⑧	90
旱天	旱天つづきの田圃の蛙／稲と一しよに 空見ては	144	「創作ノート⑩」には「田圃のひでり」という標題で掲載	⑩	4
水どんど	そろた そろつた 稲の穂だ／風は そよそよ 稲の花	146	「創作ノート⑧」には「水番(みづばん)人(水どんど)」という標題で掲載	⑧	76
とうもろこしの花	とうとう とうとう とうもろこし／すらすら 伸びてる高い花	147	「創作ノート⑭」には「とうもろこし」という標題で掲載	⑭	16
崖の白百合	取りたい取りたい 白百合が／皆 よく咲いて 幾本も	152		⑨	54
星の子供よ	今日は 三日の 三日月／三日月船には 誰が のる	154		⑫	22
河原の鳶の子	とんとん とんでる鳶の子／河原で 何を さ がしてる	156	「創作ノート⑧」には「鳶の子」という標題で掲載	⑧	102
二階建	新路沿の一軒家／引越して来て	158		⑨	104
魚釣三ちやん	魚釣三ちやん 釣が好き／釣竿三本 びく一つ	161		⑭	110
砂丘の蟻兄弟	砂丘のかげの蟻兄弟／小松林の家を出て	164		⑨	76
荷車ひいて来たお馬	左へ 右へ 一 二／馬が あち向 こつち向 き	166		⑫	72
水禽小舎	あひるの仲間 は あひる声／鶴は のんびり 鶴の声	168	杉山長谷雄作曲 (附楽譜)	⑬	80
水車くるくるくるくる	水車くるくるくる／朝から晩まで	170	「創作ノート⑭」には「水車くるくる」という標題で掲載	⑭	44
黍の葉サーベル	風の斥候／一とびに	172		⑨	70
曲る長土手	曲る長土手 汽車のみち／谷間に はいる汽車 の土手	176		⑫	94
似たもの	何かゞ 何かに 似てますか／お手々を 開け ば 似てゐます	178		⑪	120
赤土山	赤土山の赤松が／赤肌ならべて すくすくと	180	「創作ノート⑧」には「赤土山の赤松林」という標題で掲載	⑧	67

作品名	うたい出し (冒頭)	頁番号	備考	創作 ノート	頁番号
きんら雲・きんら波	金がとんでる 金 金 金／空一ぱい に と んでる金	182	「創作ノート⑭」には「金が流れる／明るい夕焼／きんら雲、きんら波」という標題で掲載	⑭	104
切石船の女の子	曳舟 つづくね 東京湾／ならんで 曳れる 舟何艘	184		⑭	69
名なしからかさ	雨が ひるまへ 止んだらば／日くれ の く らい 傘だな に	186	「創作ノート⑮」には「名無し傘」という標題で掲載	⑮	46
黒かがし赤かがし	あちちの田圃 の 黒かがし／黒いおべべの 黒かがし	188		⑭	70
踏切	一列 二列 三四列／自然に 次々 並んだな	190	「創作ノート⑭」には「踏切、〆切、大通り」という標題で掲載	⑭	81
三日月船	広いね／青いね	192	「創作ノート⑭」には「三日月船ね」という標題で掲載	⑭	87
ねの吉ぢいさん	塵取箱を 左手に／右手に 長柄の外簞	195		⑭	72
桐の家	桐の葉 広い葉 大きい葉／桐の葉かげの 母 屋 倉	198		⑨	58
豆いり	豆いり ばちんこ／つーん つーん ばちん	200		⑨	124
ごらんよ満月	五日も 六日も つゞいた雨が／日暮に はれ たら ぼつかりと	202	「創作ノート⑭」には「雨後の月」という標題で掲載	⑭	40
とん とん とんぼ	とん とん とんぼ 赤とんぼ／あかい かは いゝ 赤とんぼ	204		⑭	54
お寺のとんぼ	ひらひら とんぼ／小さな とんぼ	206		⑨	83
鐘つきとんぼ	真昼 静かな寺の庭／大きな楠の木のそばの	208		⑭	108
とんぼが とんぼが	とんぼ が／とんぼ が ないてゐる	210	「創作ノート⑧」には「泣いてる蜻蛉」という標題で掲載	⑧	29
蝗の馬乗り	蝗の馬乗り はいどうどう／馬の背中の稲束で	212		⑩	44
何の鈴ちろりん	ちろ ちろ りんりん 何の鈴／昨日 貰つて すぐつけた	214	「創作ノート⑨」には「何の鈴チロリン」という標題で掲載	⑨	51
夜中の鈴虫	ちろちろりん／ちろちろりん	216		⑫	79
那須野の芒	「今日は」「今日は」／誰に おじきを する 芒	218		⑩	107
ぼつん	空は 晴れてる 青空だ／親に はなれて 鳶 の子	222	「創作ノート⑨」には「一そうポツン」という標題で掲載	⑨	116
鳴子と雀	鳴子は／鳴らうか	224		⑨	127
豊年満作	今日も 日和だ 早起だ／鎌だ 砥石だ 弁当 だ	226	「創作ノート⑨」には「稲刈(豊年万作御代万歳)」という標題で掲載	⑨	132
月は出てゐるんだよ	月は 出てゐるんだよ／月は 登つてるんだよ	229		⑭	114
三つ星七つ星	今夜も 三つ星／光つてる	232		⑨	107
星の子供	まつても／まつても	234	「創作ノート⑨」には「お月様をさがす星の子」という標題で掲載	⑨	101

作品名	うたい出し (冒頭)	頁番号	備考	創作 ノート	頁番号
いつも出る星	いつも出る星 見える星／村の外れの橋に来て	236	「創作ノート⑭」には「いつも出る星見える星」という標	⑭	90
お月さん さむいで せう	お月さん／高い空で	238	「創作ノート⑮」には「お月さん寒からう」という標	⑮	19
お庭掃き	雨が上がって 二日目だ／朝から お天気	240	「創作ノート⑨」には「庭掃き」という標	⑨	81
風の足音	日暮 裏藪 何の音／さわさわ さわさわ	242		⑨	79
見えない風の子	お庭の白萩 花毎の／露の白玉 銀の玉	244		⑬	87
お芋ほり	お芋畠で お芋ほり／蔓で つながる芋 芋 芋	246	「創作ノート⑭」には「芋をほりましょ」という標	⑭	94
耳づくほうほう	ほう ほう／ほう ほう	248	「創作ノート⑬」には「耳づくホーホー」という標	⑬	94
祭のお米	がつたり ごつとり 坂みちだ／お米の俵を 積み上げた	250	「創作ノート⑩」には「祭のお米（おまつり米（ま い））」という標	⑩	116
葉げいとう	葉げいとう／葉げいとう	252	「創作ノート⑭」には「葉げいとう」という標	⑭	13
風雨光	こと こと あけて くれよ／こと こと あ けて くれよ	256	「創作ノート⑨」には「風と雨と朝の光」という標	⑨	59
渋柿甘柿	渋柿 たべた／誰が たべた	258			
藪の烏瓜	裏の竹藪 藪垣の／枇杷のならない 枇杷の木 の	260	「創作ノート⑪」には「藪の垣根の烏瓜」という標	⑪	119
森にある木	森にある木は／何の木	262		⑩	122
雀の子と栗	里で そだつた 雀の子／お山 珍らし 今日 も来て	264		⑭	105
ぎーこー かつこー	ぎーこー ぎーこー／艦の音だ	266	「創作ノート⑧」には「ギーコーカツコー」という標	⑧	88
山門	夕日 うすれる山門の／椽から 出たり はい つたり	269	「創作ノート⑧」には「山門（の夕暮）」という標	⑧	99
渡り鳥	渡り鳥一夕風だ／お山を 幾山 こえて来たの	270		⑨	129
ごとごとさん ざわ ざわさん	「誰だ」「ごとごと」／「誰だ」「ごとごと」	272	「創作ノート⑩」には「ゴトゴトさんザワザワさん」という標	⑩	137
三日月鎌	山には 一面 芒の穂／野にも 一面 芒の穂	274	「創作ノート⑪」には「三日月さん（鎌）」という標	⑪	121
案山子の電話	もしもし／兵隊姿の案山子さん	276	「創作ノート⑭」には「案山子さん」という標	⑭	52
満洲晴（建国を祝して）	夜明だ 朝日だ／きらきらだ	279	「創作ノート⑬」には「満洲建国を祝ふ童謡／「満洲晴」という標	⑬	105
秋の雨はれた日は	秋の雨／はれた日は	282	「創作ノート⑭」には「秋の雨はれた日」という標	⑭	106

作品名	うたい出し (冒頭)	頁番号	備考	創作 ノート	頁番号
桶屋のたがはめ	ぐるり まはして とん とん とん／桶屋の たがはめ とん ぐるり	285		⑮	54
日本晴	この頃 まい日 日本晴／この田舎へも 飛行 機が	288	大和田愛羅作曲 (附楽譜)	⑭	96
早起富士山	富士山 富士山 早起さんね／今朝も 私が ずみ分早く	292	「創作ノート⑨」には「早起 富士山 (家事)」という標題 で掲載	⑨	48
富士山のジャンプ	静岡すぎて 夜があけた／東京行の汽車の窓	294		⑭	100
狐のおよめさん	あらあら ばらばら 雨の音／日和はよいのに 照つてるに	296	「創作ノート⑭」には「狐の お嫁さん」という標題で掲載	⑭	42
朝のごーん 晩の ごーん	ごーん／ごーん で	299	「創作ノート⑩」には「朝の 鐘(ごーん) 晩の鐘(ごー ん)」という標題で掲載	⑩	140
町の鐘と村の鐘	町には 町の寺 が ある／どのお家より 大 きくて	302	「創作ノート⑫」には「町と 村の寺の鐘」という標題で掲 載	⑫	88
裏の木戸	乳屋さん の 後から／お米屋さん	304		⑩	31
曳き舟	川上へ 一列だ／石炭 一ぱい つみこんだ	306		⑩	43
暁の夜路	広い野原に ほの白う／月の沈んだ 暁路	308	「創作ノート⑨」には「暁の 夜みち」という標題で掲載	⑨	125
障子の孔	誰か 障子に 開けた孔／小さな指 で 開け た孔	310		⑨	126
高いぞ 高いぞ	高いぞ 高いぞ はいどうどう／お馬に はじ めて のつたんだ	312	「創作ノート⑫」には「高い ぞ高いぞハイドウドウ」とい う標題で掲載	⑫	76
きつつき	真昼 静かな 山の奥／こつ こつ ここここ こつ こつ こつ	314	弘田龍太郎作曲 (附楽譜)	⑭	66
物干の白いかげ	物干竿は長い竿／はしから はしまで ほして ある	316	「創作ノート⑭」には「物干 の白いゆげ」という標題で掲 載	⑭	136
あうむの息	青い金網 青い窓／あけつばなしの あうむの お家	320		⑬	92
親子の庭師	大きな鉄で 大きな木／ちやつき ちやつきと 大きな木	322	「創作ノート⑧」には「親子 のうゑ木や」という標題で掲 載	⑧	116
炭焼親子	炭焼竈は 土の竈／お山の奥の大土竈	324		⑭	103
村の焚火	風は 西風 雪の風／学校までは 村二つ	326	「創作ノート⑭」には「村の たき火」という標題で掲載	⑭	118
谷間の煙	谷間から／あれあれ	328	「創作ノート⑫」には「谷の 煙」という標題で掲載	⑫	34
川舟三艘	石炭つんだ 石炭舟の／帆は 白くつて 一つ だよ	330		⑧	88
火鉢屋ホテル	ホテルは新築／長火鉢	332	「創作ノート⑨」には「鉄瓶 主人(てつびんあるじ)／火鉢 屋ホテル」という標題で掲載	⑨	72
雪の遠足	高い空から つづくよ つづくよ／ひらひら ちらちら 後から後から	334	「創作ノート⑬」には「雪の (学校の全校)遠足(雪ふり)」 という標題で掲載	⑬	107

作品名	うたい出し (冒頭)	頁番号	備考	創作 ノート	頁番号
ラツセル機関車	あけても くれても 大雪吹雪／雪に埋れた レール路汽車路	336		⑭	12
あられ こんころこ んこん	あられ／こん ころ こんこん	340	「創作ノート⑭」には「あられ れコンコロコンコン」という 標題で掲載	⑭	75
氷の鏡	朝日のおそい縁側の／手水鉢	342		⑭	138
お餅やき	餅やき網は 黒い網／のせた お餅は 白い餅	344	「創作ノート⑭」には「お餅 焼き」という標題で掲載	⑭	132
吹雪です	風です 雪です 吹雪です／はや 真白に 積 んで来た	346	「創作ノート⑭」には「風で す雪です吹雪です」という標 題で掲載	⑭	77
サンタク爺さん来さ うな晩	日暮頃から さら さらり／静かに 雪に な りました	348		⑭	97
ゆきどけ	すゞ が なる／すゞ がなる	350	「創作ノート⑪」には「ユキ ドケ」という標題で掲載	⑪	94
ほんとの一軒屋	何か 童話にあるやうな／お山の奥の 谷間に	352		⑨	136
たき火	はいて あつめた 落葉のお山／もえるよ	354		⑮	84
板橋鉄橋	板橋は／鉄橋を 見て思ふ	356		⑧	98
ひねくれ松	松だ 並木だ／レール沿	358	「創作ノート⑨」には「松並 木のひねくれ松」という標題 で掲載	⑨	86
星の王子さまお姫さ ま	一番星 見つけた／一番星は 山の上	362	「創作ノート⑩」には「星の 王子様お姫様」という標題で 掲載	⑩	49
赤いガラス	赤いガラス で のぞいたら／お山は 火事だ 山火事だ	364		⑩	118
指きやうだい爪きや うだい	右のお手々の指五本／左のお手々の指五本	366	「創作ノート⑮」には「指兄 弟 つめけうだい」という標 題で掲載	⑮	40
鼻黒鼻白	炭屋の小僧さん／お鼻黒	368	「創作ノート⑩」には「鼻黒 小僧、鼻白小僧」という標題 で掲載	⑩	148
朝鮮の子供も	素足に 藁靴／ひっかけて歩く	370		⑫	48
お風呂の三日月	おとなりの／屋根棟で	373		⑭	142
お風呂のガラス窓	寒い 日暮の お風呂です／湯ぶね の ふち を こすほども	376	「創作ノート⑭」には「お風 呂場のガラス窓」という標題 で掲載	⑭	144
鬼ごっこ	じゃんけんぽんよ あいこでしょ／鬼がきまつ て ばらばらに	379	「創作ノート⑮」には「鬼ご っこ (A)」という標題で掲載	⑮	64
石の地藏さま	お地藏様は 石地藏／いつ来てみても にっこ りと	382	「創作ノート⑨」には「石地 蔵」という標題で掲載	⑨	140
仔猫の三毛さん	仔猫の三毛さん 母さん似／円い お顔で 可 愛いゝ眼	384	「創作ノート⑭」には「三毛 さん」という標題で掲載	⑭	98
おくつ と おげた	大人のおくつ こども の おくつ／一そく 二そく 三ぞく 四そく	386	「創作ノート⑮」には「お靴 とお下駄」という標題で掲載	⑮	44

作品名	うたい出し (冒頭)	頁番号	備考	創作 ノート	頁番号
大きいおふとん 小さいおふとん	大きい おふとん かけぶとん／長い おふとん しきぶとん	388	本居長世作曲(附楽譜)(曲譜では「大きなおふとん 小さなおふとん」) 「創作ノート⑬」には「大きいおふとん、小さいおふとん」という標題で掲載	⑬	111
鬼のにらみっこ	赤いお屋根の お酒屋さん／青いお屋根の お酒屋さん	392		⑨	69
煙草のはなし	煙突と／煙突と	394	「創作ノート⑩」には「煙草のはなし」という標題で掲載	⑩	123
お鼻のトンネル	お父さまのー／お鼻のトンネル レールなし	396	「創作ノート⑩」には「鼻のトンネル」という標題で掲載	⑩	5
革のおくつ	靴は あみあげ おはつだよ／もう ゴムぐつでは ないんだよ	398	「創作ノート⑨」には「革のお靴」という標題で掲載	⑨	130
ひよろろ草	日暮 冬枯 広野原／原に まばら の 枯つ草	400	「創作ノート⑮」には「ひよろろ草原」という標題で掲載	⑮	58
目白押し	文鳥 文鳥／目白押し	402	中山晋平作曲(附楽譜)「創作ノート⑭」には「目白押し」という標題で掲載	⑭	99
仲よし煙突	煙突／煙突	405		⑮	18
高脚行列	かつ かつ／皆せいたか かつ かつ	408	「創作ノート⑬」には「高あし踊」という標題で掲載	⑬	114
村の山	雪の降る日は 白い山／雨の降る日は かすむ山	412		⑩	84
尾道ぼっぼ	備後尾道ア／朝から ぼっぼ ぼっぼ	414	藤井清水作曲(附楽譜) 目次の標題は「尾道アぼっぼ ぼっぼ」。「創作ノート⑫」には「備後尾道」という標題で掲載。	⑫	95
きまり	いつでも 前には／前の車輪	417		⑨	50
士官の兄さん	今夜は ちつとも こはくない／こんこん狐も下りて来い	420	「創作ノート⑨」には「[士官の] [兵隊] 兄さん」という標題で掲載	⑨	45
兵隊さんの機関士	兵隊さん が／機関士になつてる	422		⑫	74
ヘイタイサン	ラップニアハセテ ヘイタイサン	—	宮城道雄作曲(楽譜のみ 本文の記載はなし)	⑯	42
大蛇退治	オソロシ オソロシ ヤマタノ オロチ	—	小松耕輔作曲(楽譜のみ 本文の記載はなし) 「創作ノート⑭」には「大蛇たいぢ」という標題で掲載	⑭	5

◇ 第六童謡集『雀よこい 葛原しげる童謡集』(小学館、1956年11月)

雀よ こい	雀よ こい／おりて こい	23	小松耕輔作曲(巻末に楽譜) 「創作ノート⑳」には「雀よ来い」という標題で掲載	⑳	94
はい おめでとう	「はい おめでとう ございます」／大きなお口を あけたまま	25	「創作ノート㉑」には「はい、[おめでたう] [あけまして]」という標題で掲載	㉑	108
日本のお正月	女の子どもが 集まって／かつちん かつちん ついでいる	28	「創作ノート㉓」には「日本の正月」という標題で掲載	㉓	77

作品名	うたい出し (冒頭)	頁番号	備考	創作 ノート	頁番号
チューリップ	チューリップ チューリップ／チューリップの花びら	30	「創作ノート⑭」には「チューリップの花片」という標題で掲載	⑭	87
はとの波	はとが ぱっぱっ おやねから／おりては おりては 肩に来て	32	「創作ノート⑮」には「鳩の波」という標題で掲載	⑮	132
たんぽぽ ぽっぽっ	野みち 細みち 草のみち／一すじみちの両側に	34	「創作ノート⑯」には「たんぽぽ、ぽっぽつ花ざかり」という標題で掲載	⑯	2
夜ざくら	おととい きのう きょう 三日／よくも つづいて 花ぐもり	36		⑰	14
おぼろお月さま	東のお山を 出はなれた／おぼろお月さま ねむたそう	38	「創作ノート⑳」には「おぼろお月様」という標題で掲載	⑳	86
雨ふりダンス	雨の小人の雨ふりダンス／町じゅう 屋根じゅう	40		㉑	117
さくら草	私たちの教室の／かわいい小鉢の	44	「創作ノート㉒」には「教室のさくら草」という標題で掲載	⑱	168
早出当番	だれよりも 一番早く来て／早出当番	46		⑲	40
人形のうば車	小さな小さな うば車／お人形さんのでございます	48		㉓	63
カナリヤ病院	雨ふりで／うすら寒い日	50	「創作ノート㉔」には「カナリヤ病気」という標題で掲載	⑳	36
先生のおうちで 先生は	先生のおうちで 先生は／和服で 帯して いらした	52	「創作ノート㉕」には「先生のお家で先生は」という標題で掲載	⑲	53
くつ音 あま音	からかさ／あまがさ	54	「創作ノート㉖」には「傘の音楽会」という標題で掲載	㉓	123
すべり台 のぼり台	すーっと一息 速いこと／両手ばなしの すべり台	58		㉔	9
お友だちのほくろ	お顔の写生 お友だちの似顔／向き合って ふたりで	60	「創作ノート㉗」には「お友達のほくろ」という標題で掲載	㉔	137
赤いまる	赤いインキの 赤いまる／きれいに咲いた 花もよう	62	「創作ノート㉘」には「おまる」という標題で掲載	⑳	122
おねえさまの お箏	おねえさま ほんとに お箏好き／朝ひき 午後ひき 夜もひき	64	「創作ノート㉙」には「お姉さまのお琴（お琴好き）」という標題で掲載	㉔	151
そら豆の皮むき	そら豆の皮むき／ぱくっ ぱくっ	66	「創作ノート㉚」には「豆の皮むき」という標題で掲載	⑲	50
やぎさん親子	やぎさん親子／どちらが 親やぎ	68	「創作ノート㉛」には「山羊さん親子」という標題で掲載	㉔	115
空中ケーブル	電信線の雨のたま／空中ケーブル	70		㉔	161
芽づくし畑	二三日つづいた雨上がり／五月の畑は 芽づくし畑	74	「創作ノート㉜」には「芽尽し畠」という標題で掲載	㉔	114
ねんどざいくの象の子	象の子 象の子／どこ いった子	76	「創作ノート㉝」には「ねんど細工の象」という標題で掲載	㉔	2
お池の水の輪	きらり 光って／ぼてり 落ちて	78		㉔	18

作品名	うたい出し (冒頭)	頁番号	備考	創作 ノート	頁番号
雨がさ行列	赤や 黄いろや 紫や／だんだら模様 はで模様	80	「創作ノート②④」には「雨傘行列」という標題で掲載	②④	45
鯉の風好き	鯉の風好き 踊好き／風さえ来れば	82	「創作ノート②②」には「鯉[の] [は] 風好き」という標題で掲載	②②	106A
青教室	みんなの 右の手／青い色	84	「創作ノート①⑦」には「青い教室」という標題で掲載	①⑦	156
伊勢の竹笛	小さな 短い竹の笛／お伊勢まいりの おみやです	86		①⑦	152
湯上がり坊や	ぷくぷく／まるまる	88	「創作ノート②④」には「坊やのお芋」という標題で掲載	②④	94
二階で聞く音	二階で 夕方 聞く音は／ぺぽぺぽ ぼっぼう また ペっぼう	90	「創作ノート①⑨」には「お二階で聞く音」という標題で掲載	①⑨	28
天神さままいり	天神さまの 太鼓橋／二つ並んで 二つ橋	92	「創作ノート②②」には「天神様まゐり」という標題で掲載	②②	15
夢の玉	きら きら 夜あけの露の玉／金の玉 銀の玉	96	「創作ノート②④」には「夢の珠」という標題で掲載	②④	32
鈴ふるお馬	しゃんころ しゃんこ／しゃんころ しゃんこ	98		①⑦	93
カナリヤさん	カナリヤさん お早うさん／かごに 明かるく 朝日がさして	100	「創作ノート②①」には「かなりやさん」という標題で掲載	②①	128
おやかん二つ	学校じゅうの長廊下／昼すぐ前の	101	「創作ノート②②」には「お薬缶二つ」という標題で掲載	②②	111
折り鶴だらけ	妹 このごろ 折り鶴じょうず／紙なら みんな 四角にきって	104	「創作ノート②④」には「折鶴だらけ」という標題で掲載	②④	8
みなと	おふね おふね／大きいおふね	106		②⑥	100
しゃぼんだま	ふくれる ふくれる しゃぼんだま／くるくる まわり まわり	108	「創作ノート②②」には「大きなシャボン玉」という標題で掲載	②②	110
卵わり	きれいな 卵ばっかりね／おんなじ大きさの ばっかりね	112		①⑧	171
トンネルつづき	トンネルだ トンネルだ／ほら また トンネルだ	114	佐々木すぐる作曲(巻末に楽譜)「創作ノート②③」には「トンネルつづき」という標題で掲載	②③	125
おさるさんのおうち	おさるさんのおうちは／おさるさんばかり	116	「創作ノート①⑧」には「お猿のお家」という標題で掲載	①⑧	148
小ぬか雨	学校がえりの小ぬか雨／すこうしぬれる お洋服	118	「創作ノート①⑦」には「帰りの小雨」という標題で掲載	①⑦	121
どこのはと	おうちのお庭に／まいにち おりて	119	「創作ノート②④」には「をかしな鳩[のうち][さん]」という標題で掲載	②④	114
飛行機と地面	飛行機 飛行機 高い空／プロペラ うならせ	122		②⑩	127
晩ごはんの後	夕刊 よみよみ おたばこ おのみ／おたばこののみ 夕刊 およみ	124		②③	145
バスと電車	バスはバス道 電車はレール道／並んで走る どちらも速い	126		②②	136
おばけ大会	おばけ大会の 大おばけ／入口すぐの 大入道	128		①⑧	38

作品名	うたい出し (冒頭)	頁番号	備考	創作 ノート	頁番号
ぐみのみ	ぐみのあかい実 はちきれそう／つやつや きれいな丸い頬	133	「創作ノート②」には「ぐみの実」という標題で掲載	②	139
野ぶどう	するする伸び出て／やさしいつるは	134	「創作ノート④」には「野ぶどう」という標題で掲載	④	27
あやまち	妹の こわした／植木鉢	136		⑦	127
波にゆられる武者人形	毎朝 わたる 橋下に／二そう ならんで まっていた	138	「創作ノート⑧」には「お船のおせつく」という標題で掲載	⑧	34
とんがりお耳	ろばのお耳は とんがりお耳／とんがりお耳の	140		⑨	157
二日月	二日月／ほそい月	142		⑩	27
石ころお菓子	でこぼこ小みちの／へこんだ くぼみ	144	「創作ノート⑫」には「石ころの相談」という標題で掲載	⑫	53
小さなブランコ	小さなブランコ／ふらりん ふらりん	146	「創作ノート⑭」には「小さな小さなブランコ」という標題で掲載	⑭	37
初ぜみ	ことし はじめてのせみのこえ／どこでか いてる せみのこえ	150	「創作ノート⑮」には「初蟬」という標題で掲載	⑮	48
鼻つまみぜみ	いつでも 風を ひいたこえ／きのうも うも みいん みいん	152	「創作ノート⑯」には「花つまみ蟬」という標題で掲載	⑯	128
ひげととげ	生れて間のない 子どもだのに／子ねこが ん ぴん いく本も	153		⑰	39
つばめの子	つばめの子どもが 大きくなって／小さな巣から	154	「創作ノート⑲」には「こぼれさうな燕の子」という標題で掲載	⑲	46
あめんぼ どうして	あめんぼ あめんぼ／どうしてね	156	「創作ノート⑳」には「あめんぼ」という標題で掲載	⑳	12
波のほうき	波のほうきが さあら さら／ひっきりなしに	158	「創作ノート㉒」には「波の箒」という標題で掲載	㉒	106B
かくれんぼう	「もう いいかい」「もう いいかい」／「ま あだだよ」	160	「創作ノート㉔」には「かくれん坊」という標題で掲載	㉔	89
熊んばち	はちが 大きな巣をかけた／高いおやねの の下	162	「創作ノート㉖」には「熊ン蜂の巣」という標題で掲載	㉖	98
涼しい雨ふり	涼しい雨ふり／ひさしぶり	164	「創作ノート㉘」には「涼しい雨」という標題で掲載	㉘	43
いちごとり	いちご畑は いちごばかり／花も いちごの花 ばかり	166	「創作ノート㉚」には「苺とり」という標題で掲載	㉚	483
植木屋さんの畑	植木屋さんの畑は 広い／畑に 一ばいに きれいに ならんでいる	168	「創作ノート㉜」には「植木屋の畠」という標題で掲載	㉜	119
ぬれ坊主	雨に じゅぶ じゅぶ ぬれている／お地藏さ まの石あたま	170		㉞	82
朝顔の昼寝	朝顔 早起き ねむくない／夜の間に 夜露を よく吸って	174	「創作ノート㉞」には「朝顔[朝][早]早起き」という標題で掲載	㉞	44
ほうっっておいた朝顔	つかい棒を 一本も／立ててもやらず うっっておいた	176	「創作ノート㉟」には「[地面の][ほつといた]朝顔」という標題で掲載	㉟	65

作品名	うたい出し (冒頭)	頁番号	備考	創作 ノート	頁番号
かえるの好きなもの	かえる どちらが好きですか／びよん びよんとぶのと	178	「創作ノート②②」には「蛙どちらが好きですか」という標題で掲載	②②	141
はだして水まき	はだして水まき／涼しいな	181	「創作ノート②①」には「はだしの水まき」という標題で掲載	②①	104
小さなおにごっこ	そよ そよ／海から 風が吹く	184	「創作ノート②⑩」には「小さな鬼ごっこ」という標題で掲載	②⑩	175
海水浴	夏だ 真昼だ 満潮だ／赤だ 黄色だ 青 白だ	186		①⑥	32
赤い浮木	ぴくり ぴくり／風が揺するか	188	「創作ノート①⑥」には「魚つり(赤い浮木)(とんかりあたま)」という標題で掲載	①⑥	27
村長さんの「エチケツト」	村長さんの夏羽織／かたびらぜみの羽根のよう	190	「創作ノート②②」には「村長さんの夏羽織」という標題で掲載	②②	101
夕やけ雲	夕日が まぶしくても まともでも／遠くの見える	192	「創作ノート②①」には「雲を見る子／夕やけ雲」という標題で掲載	②①	122
昼間のほたる	ほたる のそ のそ／かごの中	196	「創作ノート①⑨」には「昼間の蛍」という標題で掲載	①⑨	49
初めてのほたる	ねえやが いなかで とって来てくれた／ほんとうのほたるで ございます	198	「創作ノート①⑨」には「初めての蛍」という標題で掲載	①⑨	44
電線大ゆれ	電線 ゆら ゆら／大ゆれ 大ゆれ	200	「創作ノート①⑧」には「電線ゆらゆら」という標題で掲載	①⑧	152
こうもり こい	こうもり こい／ひら へら ひら へら	202	「創作ノート①⑦」には「かうもり来い(ひらへらダンス)」という標題で掲載	①⑦	26
へんなねこちゃん	ねこちゃん ときどき 外あるき／外に出たがる癖がある	204	「創作ノート②④」には「へんな猫ちゃん」という標題で掲載	②④	68
あわてたお客さま	青ぎり 涼しい 裏庭で／花ござ しいて	206	「創作ノート②④」には「早いお客さま」という標題で掲載	②④	110
すいかと ひまわり	畑は 広いな 大きいな／見渡すかぎりのすいか畑	208	「創作ノート②③」には「特殊の爆弾・探照燈」という標題で掲載	②③	107
蜘蛛の電話	桜の木から 梅の木へ／梅の木からは 桃の木へ	210	平井康三郎作曲(巻末に楽譜)	②②	121
雨もり	ざあ ざあ 雨もり／大きわざ	212		②①	112
いなかのダンス	風の吹く日のいなかのダンス／やぶでは ゆうらり ゆうらりと	216	「創作ノート②②」には「田舎のダンス」という標題で掲載	②②	97
金魚と金魚	ゆうらり ゆらり／仲よく 並んで うれしげに	218		②③	42
こぼれ水	夏のお休みおわりの日／雨が降り込んだお縁側	220		②④	16
おすもうさんのボート乗り	公園の池の 貸しボート／いろんな人が 何ぞうも	222	「創作ノート②④」には「お角力さんのボートのり」という標題で掲載	②④	9
夕立だしぬけ	夕立だ だしぬけだ／ばち ばち ばち ばち	224	中田喜直作曲(巻末に楽譜)	①⑨	55

作品名	うたい出し (冒頭)	頁番号	備考	創作 ノート	頁番号
夕立やんだよ	夕立やんだよ やんだよと／せみの大声 鎮守 森	226	「創作ノート②」には「夕立 やんだよやんだよ」という 標題で掲載	②	93
サイダー瓶の風鈴	ガラスの風鈴 ちり ちりん／胴切にしたサイ ダー瓶	228	「創作ノート③」には「サイ ダ瓶の風鈴」という標題で掲 載	③	53
おねんね	おとうと おねんね／真っ白のシーツの上で	230		④	81
山芋	山の畑は 山芋畑／日ごと ころ ころ 子芋 が ふえて	232	「創作ノート⑧」には「山の 芋畑」という標題で掲載	⑧	1
子馬の目 子馬の尾	子馬の目／かわいい目	234	「創作ノート②」には「仔馬 の目、仔馬の尾」という標題 で掲載	②	130
なでしこ村	海水浴のおわりの日／少し はなれた 松原へ	238	「創作ノート④」には「なで しこ村／海水浴のをはりの 日」という標題で掲載	④	22
うねくね うねくね	お山が 右から 左から／はさんだ谷間の白い みち	240	「創作ノート⑥」には「うね くね谷」という標題で掲載	⑥	104
ちりりん ひらりん	ちりりん／ちりりん	242	「創作ノート④」には「風鈴 と短冊」という標題で掲載	④	100
港のとんび	とんび ぴいんよろう／ゆっくりね	244		⑪	129
海から引き上げ	夏の休みも おわりです／あすと あさって 二日だけ	246	「創作ノート④」には「夏の 休みもをはりです」という標 題で掲載	④	79
キャンプごっこ	山から帰った にいさんの／テントを借りて 裏庭で	249	「創作ノート④」には「ギャ ンプごっこ」という標題で掲 載	④	40
東京はいいね	兄弟ばかりで／お休み中	252	「創作ノート④」には「東京 はいゝね」という標題で掲載	④	111
お山の あの子	お山の あの子は／笛を じょうずに	254		⑫	129
原っぱ 原っぱ	原っぱ 原っぱ／すばらしい 原っぱ	257	「創作ノート③」には「原っ ぱ原っぱ」という標題で掲載	③	141
日の出 月の出	山の子どもが いったのさ／「朝日は	263	「創作ノート⑧」には「山と 海と町と里と／日の出、月の 出」という標題で掲載	⑧	12
目かくしおに	「おにさん どちら／手のなる方へ」	266		⑫	163
すすきと芋と	すすき 細い手 やさしい手／お出で お出で と 招いてる	268	「創作ノート②」には「芒と 里芋」という標題で掲載	⑫	106C
汽船のぼう	長く尾を引く／汽船の ぼう	270	「創作ノート④」には「汽船 のポー」という標題で掲載	④	19
あす来てとろうか	すすきの穂が のびた／わたしのせいより 高 く 伸びてる	272	「創作ノート⑧」には「秋の 野で(とるのはよさうか)」と いう標題で掲載	⑧	35
葉げいとう	葉げいとう／きれいだねえ	274	「創作ノート⑦」には「ハゲ イトウ」という標題で掲載 宮城道雄作曲 (附楽譜)	⑦	54
うさぎの赤い目 長 い耳	うさぎ うさぎ 白うさぎ／お耳 どうして	276	「創作ノート⑦」には「うさ ぎ」という標題で掲載	⑦	41
二階の縁側	おかあさま／おふとんが	278		⑫	10

作品名	うたい出し (冒頭)	頁番号	備考	創作 ノート	頁番号
わらびひげ	女ねこです／子ねこです	280		㉑	107
お月さま見ると	きれいな きれいな／お月さま	284	松田トシ作曲 (巻末に楽譜)	㉓	47
お月さまの散歩	お月さま／お風呂から	286	「創作ノート㉑」には「お月さま湯上り」という標題で掲載	㉑	2
星は昔から	とうさんも かあさんも／おばあさんも おじいさんも	288	「創作ノート㉓」には「星星ピカピカ」という標題で掲載	㉓	52
もう出て びかびか	もう出て びか びか／よろこんで	290	「創作ノート㉓」には「もう出てピカピカ」という標題で掲載	㉓	48
遠足がえり	三日月さまが 出てました／遠足帰りの西の空	292	「創作ノート㉒」には「遠足帰り」という標題で掲載	㉒	158
空	高いな／広いな	294	「創作ノート㉖」には「空 (その一) A」という標題で掲載	㉖	108
雀鈴なり	鈴なりに／よく熟した赤いかき	296		㉒	123
丘の松	お寺の後は 松林／竹やぶ続いた丘の上	298	「創作ノート㉗」には「岡の松」という標題で掲載	㉗	481
いつも牛飼	いつも 牛飼／めずらしゅう ないよ	300		㉒	96
よく鳴る太鼓	ことしゃ 豊年／祭が近い	304		㉒	91
朝の露	雨は 夜の中に やんでいた／お庭の どの木の どの葉にも	306	「創作ノート㉑」には「露のすべり台 朝の庭」という標題で掲載	㉑	136
子どもみこし	祭だ みこしだ／子どものみこしだ	308	「創作ノート㉒」には「まつりだみこしだ／子供みこし」という標題で掲載	㉒	25
たるみこし	わっしょ わっしょ／しょい しょい わっしょい	310	「創作ノート㉑」には「[たる][子供]みこし」という標題で掲載	㉑	30
葉っぱが ちった	葉っぱが ちった／どっちから ちった	314	「創作ノート㉖」には「はっぱがちった」という標題で掲載	㉖	98
田んぼの中みち	稲が 黄いろく熟しはじめて／田んぼ あぜ道	316		㉔	106
とんびと宿題	きょうも よいこえ／すんだこえ	318		㉒	131
稲刈	きょうも 朝から 上天気／田んぼ 一面 金の波	321	「創作ノート㉑」には「豊年 (稲刈)」という標題で掲載	㉑	75
砂川土手のそば畑	砂川土手みち 草のみち／草をむしって 砂ほって	324	「創作ノート㉗」には「砂川土手のそば畑」という標題で掲載	㉗	203
キの字の行列	田んぼのまん中／まっすぐに	328	「創作ノート㉔」には「キの行列」という標題で掲載	㉔	11
お芋ほり	いなかの畑 芋畑／学校の畑で お芋ほり	330	「創作ノート㉒」には「田舎の島でお芋ほり」という標題で掲載	㉒	115
もみずり機	まわるベルトだ／モーターだ	334		㉗	152
かあさん まあだご入院	かあさん／まあだ	336	「創作ノート㉔」には「帰りみち」という標題で掲載	㉔	97

作品名	うたい出し (冒頭)	頁番号	備考	創作 ノート	頁番号
もえつく夕日	まっかな まっかな／きれいな夕日	338	「創作ノート⑱」には「まっかな夕日」という標題で掲載	⑱	39
でこぼこ ならんで	稲束 つぎつぎ おろされて／田んぼに のこって ならんでる	340	「創作ノート㉓」には「でこぼこ並んで」という標題で掲載	㉓	553
南天のおよめさん	南天／きょうは	345	「創作ノート㉔」には「南天のおよめ [さん] [入]」という標題で掲載	㉔	95
雪空	雪になりそうな 日暮れがた／鎮守の森にもからっ風	348		㉔	92
冬の手品	つばきの葉っぱ 八つ手の葉っぱ／緑の葉っぱが 夜のうちに	350		㉔	108
初雪	初雪が たいそう つんだ日に／雪が 好きなのは	352		⑱	166
雪のかえり道	雪ふり 雪ふり かえり道／かさは こうもり 軽いかさ	354	「創作ノート㉔」には「雪のかへりみち」という標題で掲載	㉔	134
意地悪木枯らし	意地悪木枯らし 夜の風／おせどの まきの木の てっぺんで	356	「創作ノート㉔」には「意地悪木枯」という標題で掲載	㉔	107B
玉ねぎ料理	とうさま お好きな玉ねぎの／料理を きょうこそ してみましょ	358		㉔	50
ちょうしんき	坊やが 病気でねてるので／毎日 ひるすぎ	360	「創作ノート㉔」には「坊やの病気」という標題で掲載	㉔	136
学校の子りす	学校の／小使さんの 三びきの	362	「創作ノート㉔」には「学校の子りす」という標題で掲載	㉔	21
土瓶じいさん	土瓶じいさん／よいきげん	366	「創作ノート㉔」には「土瓶ぢいさん」という標題で掲載	㉔	104
電車が とまって	電車が とまって／ドアがあいて	368	「創作ノート㉔」には「電車がとまって」という標題で掲載	㉔	84
りんごの皮むき	りんごの皮むき 習ったばかり／ずいぶん じょうずになりました	370		㉔	133
屋根の瓦	屋根の瓦の行儀よし／きちん きちんと 並んでる	372	「創作ノート㉔」には「お屋根の瓦」という標題で掲載	㉔	7
茶わんの絵	わたしの去年の茶わんの絵／白地に 赤の自動車ポンプ	374		⑱	132
文鳥	文鳥 ちっ ちっ／わたしに よく なれて ちっ ちっ	376	「創作ノート⑱」には「文鳥ちつちつちつ」という標題で掲載	⑱	172
おえんまさま	おえんまさまは 昔から／うそをつく子の 舌をぬく	378	「創作ノート⑱」には「おえんまさままるり」という標題で掲載	⑱	154
黒ねこ	どこから はいったか／知らぬまに	380	「創作ノート㉔」には「黒い猫どろ棒」という標題で掲載	㉔	95
こら 地震	こら 地震／男だろう	382	「創作ノート㉔」には「卑怯だぞ地震」という標題で掲載	㉔	109
耳	東に ひとり／西にも ひとり	384	「創作ノート㉔」には「耳の謎」という標題で掲載	㉔	153

作品名	うたい出し (冒頭)	頁番号	備考	創作 ノート	頁番号
急の寒さで	急に お寒く なりました／遠くの山山	386	「創作ノート⑰」には「寒さ」という標題で掲載	⑰	123
今 目がさめた	今 目がさめた／エンジン 動くぞ	388	「創作ノート⑳」には「今目がさめた、はたらくぞ」という標題で掲載	㉔	118
宝石御殿のおひめさま	いのこり当番／たいへん よくできて	392	「創作ノート㉑」には「帰りの電車」という標題で掲載	㉑	101
夕刊くぱり	ぎり ぎり／びり びり	394		㉓	124
ねずみのおにごっこ	天井裏で まっ昼間／大きな音 たてて	396	「創作ノート㉒」には「鼠の鬼ごっこ」という標題で掲載	㉒	20
金のタオル	海は／きらきら 金の海	398	「創作ノート⑲」には「お日様のしづく」という標題で掲載	⑲	51
さびたはさみ	すこうし さびた わたしのはさみ／切りぼかしするとき	400	「創作ノート⑰」には「さびてる鋏」という標題で掲載	⑰	155
地下鉄電車	ごう ごう しゃあ しゃあ／走っても 走っても	402		㉕	37
山は だまってる	山は／だまってる	404	山田耕筰作曲 (巻末に楽譜)	⑱	4
お目目二つで	お目目二つで 役目は一つ／見る役目	406	「創作ノート㉗」には「役目」という標題で掲載	㉗	541
たこ合戦	風は 西風 強い風／みるみる 身軽に 上がるたこ	408	「創作ノート⑰」には「凧合戦」という標題で掲載	⑰	68
影とすたこら	駅まで 一キロ 田んぼ道／毎朝 後に 日がのぼり	412	「創作ノート㉗」には「影とスタコラ」という標題で掲載	㉗	205
風と煙	煙さん／今 吹いてるのは	415	「創作ノート㉑」には「煙さん」という標題で掲載	㉑	6
わたしは おばあさん	わたしは／あすから おばあさん	416	「創作ノート⑲」には「私はおばあさん」という標題で掲載	⑲	26
八つ手	八つ手／八つ手	418	「創作ノート㉑」には「インチキ八つ手」という標題で掲載	㉑	26
霜やけあんよ	わたしのあんよは 霜やけあんよ／毎年 おきまり	420	「創作ノート㉑」には「霜やけ」という標題で掲載	㉑	125
植木の刈込	ぱちん ぱちん／ぱっちん ぱっちん	422	「創作ノート⑱」には「刈込の音」という標題で掲載	⑱	29
石川五右衛門	旅の役者で にぎやかな／村の祭の芝居小屋	424		㉗	201
昭和の花咲おじいさん	昭和の花咲おじいさん／日本国中 やけあとの	426	「創作ノート⑰」には「花咲爺さん花やさん」という標題で掲載	⑰	6
砂利のみち	毎朝 急ぐ砂利のみち／駅まで 一キロ 本通り	428		㉕	54
笑わせ灰	枯木に 花を咲かせたは／花咲じいさんの花咲かせ灰	431	「創作ノート㉑」には「笑はせ灰」という標題で掲載	㉑	42
キューピーさん	キューピーさん キューピーさん	—	弘田龍太郎作曲 (楽譜のみ 本文の記載はなし)	⑤	70
とんび	とべ とべ とんび そらたかく	—	梁田貞作曲 (楽譜のみ 本文の記載はなし)		

作品名	うたい出し (冒頭)	頁番号	備考	創作 ノート 頁番号
ゆうひ	ぎんぎん ぎらぎら ゆうひが しずむ	—	室崎琴月作曲 (楽譜のみ 本文の記載はなし) 「創作ノート③」には「夕日」という タイトルで掲載	③ 176